

令和6年度 甲府市社会福祉審議会 障害者福祉専門分科会
第1回審議会(書面審議) 議事録

開催日:令和6年8月16日(書面審議)

出席委員:(議案確認書提出者 委員13名中13名)

星野和實会長、越水眞澄委員、岡村昌典委員、神吉まゆみ委員、山崎弘道委員、
畠山和男委員、黄淳一委員、間淵文彦委員、山角駿委員、大塚ゆかり委員、
千野由貴子委員、青嶋和幸委員、秋山賢一委員

議 事:

- 1 「甲府市障がい者福祉計画」数値目標(計画値)設定事業の評価について(審議)

事務局:

「甲府市障がい者福祉計画(令和3年度～令和5年度)」について、令和5年度における計画値(目標値)に対する実績値の報告・説明を行い、各委員から書面にて確認を得た。

議案の確認に付された意見

A 委員:

基幹相談支援センター「りんく」の事業については、数値化されていないものもあります。「りんく」の事業について、公にされているものがあれば、URL などをお示しいただければと思います。また、成年後見制度に関する事業も数値が出ているので、実績値を示された方がよいと思います。

B 委員:

医療的ケア児に関する支援業務は、今後もますます増大かつ複雑化すると思われます。「医療的ケア児に対するコーディネーターの配置」については、1名と言わず、さらなる増員が望まれます。

C 委員:

・第5次健やかいきいき甲府プラン-障がい者福祉計画については分科会の中の計画部会で既に論議されているものであり、出来上がった計画の説明のためだけに分科会を充てるということ自体に違和感を感じている。条例にもある通り、そもそもこの分科会は甲府市の障害者福祉に関することを審議するものであり、ここ数年の審議内容は計画の進捗と説明に終始するのであれば計画部会だけあればよいということになりはしないだろうか？計画以外議題として抽出できない、感染対策云々でもないのに書面決議を安易に選択するというのは行政の怠慢以外の何物でもないと思っている。

・元日の能登の地震を見て甲府市の備えはどうなっているのか、在宅の障害のある人への配慮は十分か、医療の連携はどうか等気にはならないのだろうか？発災時の障害者の死亡率は健

常者のその2倍であることはよく言われる話である。能登においても若くて健康な人達の復旧・復興のスピードに比べ、高齢者や障害者は半年以上経過しても未だに避難所暮らしのまま明日の生活の見通しさえつかない状況の方も多くいらっしゃる現実が示す通り、備えてこなかった、想定してこなかった自治体の現実がこれである。果たして甲府市はどうか？要支援者台帳の整備に始まり、個別避難計画の準備、避難所の運営の実際など「平時に備えるべきこと」「災害弱者に目線を合わせた仕組みづくり」を考えているのか？とつくづく疑問に感じている。以前に自立支援協議会の立場で意見を言ってみたが担当課からの応答はなく、これが甲府市の実情かと嘆かわしく感じたことを記憶している。折しも南海トラフ地震への備えも気象庁からも発出された(終了となった)ところだったが、行政はどうか？市民に投げかけるのと同時に行政は点検しているのか？是非にこの審議会場で議論をしてもらいたい。自助・共助は公助が機能してこそそのもの。どんなに個人が備えても限界がある、地に足のついた備えと訓練、避難所の点検など安心が見える化してもらいたいと感じている。

・何故かこの部会は医療関係者ばかりが委員に選出されているがこれは何か意図があるのか？障害者の診察の経験の少ない医師に障害者に関連する問題意識を持つことは相当に困難であると思われる。いわゆる障害者福祉の支援のプロや人権擁護の視点等もっと多角的な見立てが出来る委員構成が望ましいと思っている。

資 料:

資料1 令和6年度甲府市障害福祉専門分科会委員名簿

資料2 甲府市障がい者福祉計画(令和6年度～令和8年度)本編・概要版

資料3-1 甲府市社会福祉審議会条例

資料3-2 甲府市社会福祉審議会運営要綱

資料3-3 甲府市社会福祉審議会の概要(抜粋)

資料3-4 甲府市社会福祉審議会障害者福祉専門分科会運営要領

資料4 「甲府市障がい者福祉計画」数値目標(計画値)設定事業実施状況及び
成果目標・その他の活動指標

別 紙 議案確認書